

4 森林・林業の現状と取組

(1)日野郡の森林の現状

○日野郡の林野面積は52,657haと総面積の88%を占めている。

○民有林のうちスギ・ヒノキ等の人工林は31,114haで、人工林率は62%である。

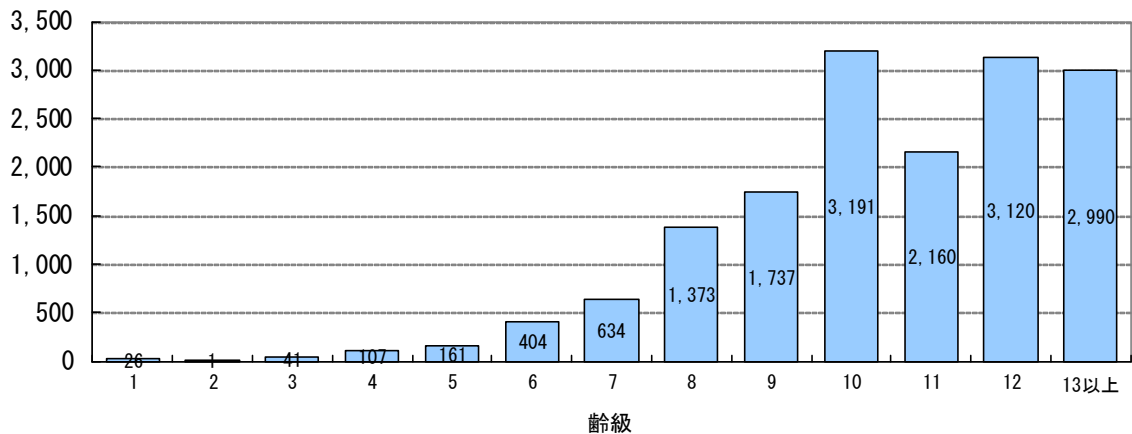
○スギ・ヒノキの人工林資源は7から12齢級に団塊的に存在しており利用間伐が進んでいるが、今後とも資源の有効活用が求められている。

区分	土地面積	林野面積				民有林内訳			
		国有林	民有林	計	林野率	人工林	天然林	その他	人工林率
日南町	34,096	1,311	29,150	30,461	89%	18,312	10,544	295	63%
日野町	13,398	375	11,662	12,037	90%	8,028	3,429	205	69%
江府町	12,452	870	9,289	10,159	82%	4,774	4,265	251	51%
局計	59,946	2,556	50,101	52,657	88%	31,114	18,238	751	62%
全県	350,705	31,340	227,325	258,665	74%	123,598	96,376	7,352	54%

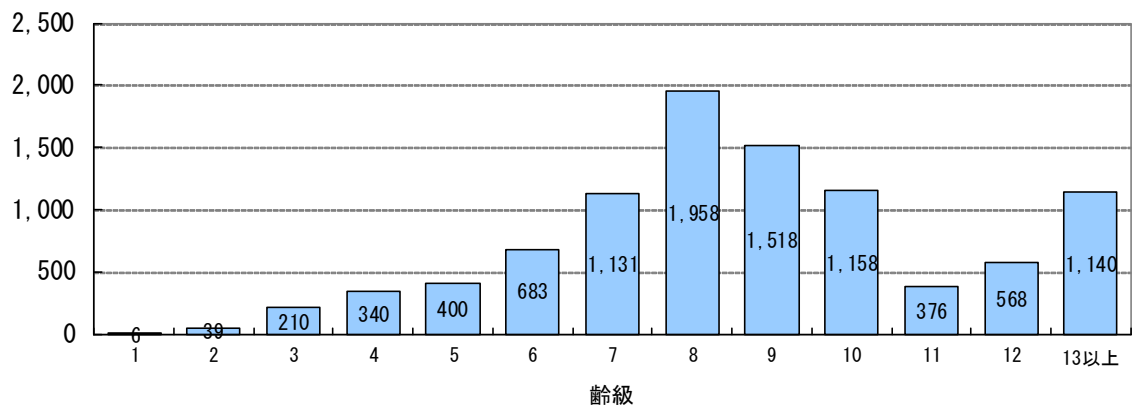
単位：ha、%

※出典：平成28年度鳥取県林業統計

日野郡内の齢級構成（スギ）



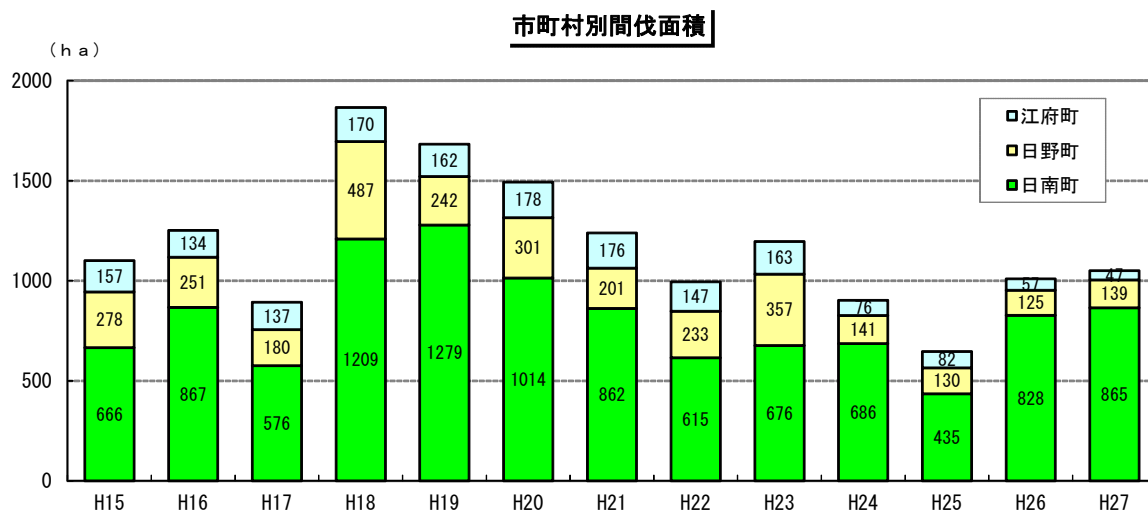
日野郡内の齢級構成（ヒノキ）



※出典：森林簿

(2)間伐の推進

- 森林の適正な管理を確保するため、間伐の推進に取り組んでいる。
- 間伐材の有効活用を推進するため、平成13年度から「間伐材搬出促進事業」（単県）、平成25年度からは「間伐材搬出等事業」を実施し、間伐材の市場への運搬・出荷経費に補助してきた。日野郡では、対前年比139%となる約7万m³の間伐材が搬出された平成23年度を契機として、その後は概ね同程度の間伐材が搬出されている。
- 「低コスト林業機械リース等支援事業」（国庫・単県）等を実施して搬出用機械の導入を支援し、搬出コストの低減を図っている。



※出典：平成27年度鳥取県林業統計

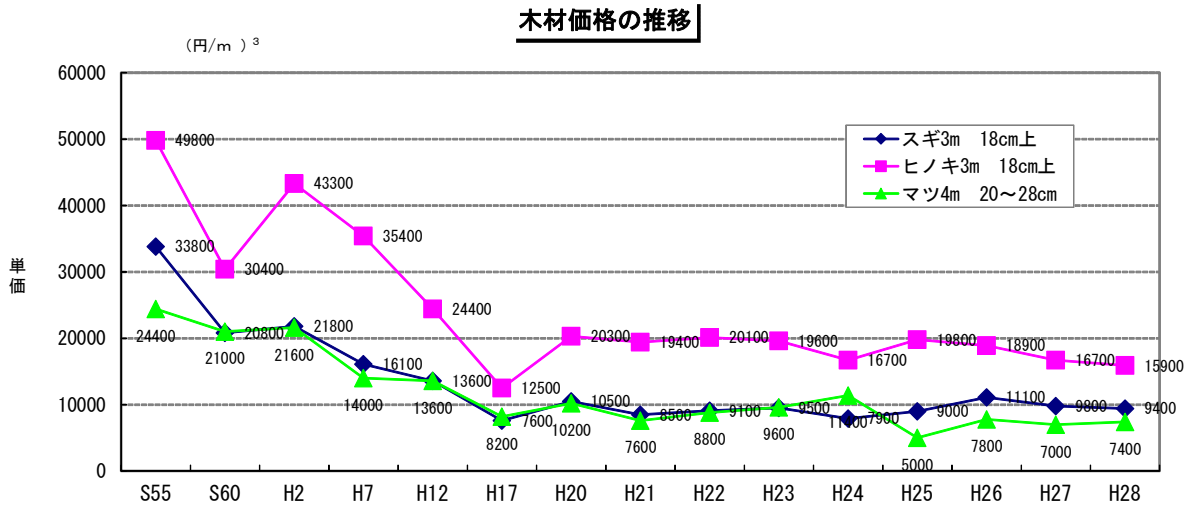
間伐材搬出等事業の実績

		H17	H19	H21	H23	H24	H25	H26	H27	H28
日野郡	材積(m ³)	19,101	25,489	43,383	70,890	63,862	64,637	65,102	72,099	73,858
	金額(千円)	82,136	101,956	169,192	269,383	242,676	228,724	209,409	216,296	221,569
	県内シェア(材積%)	63	60	50	46	46	41	34	33	34
全県	材積(m ³)	30,485	42,226	86,600	154,120	139,186	159,068	192,162	215,698	215,045
	金額(千円)	131,086	168,905	337,739	585,653	528,734	561,573	616,972	647,094	645,122

※出典：日野振興局業務資料

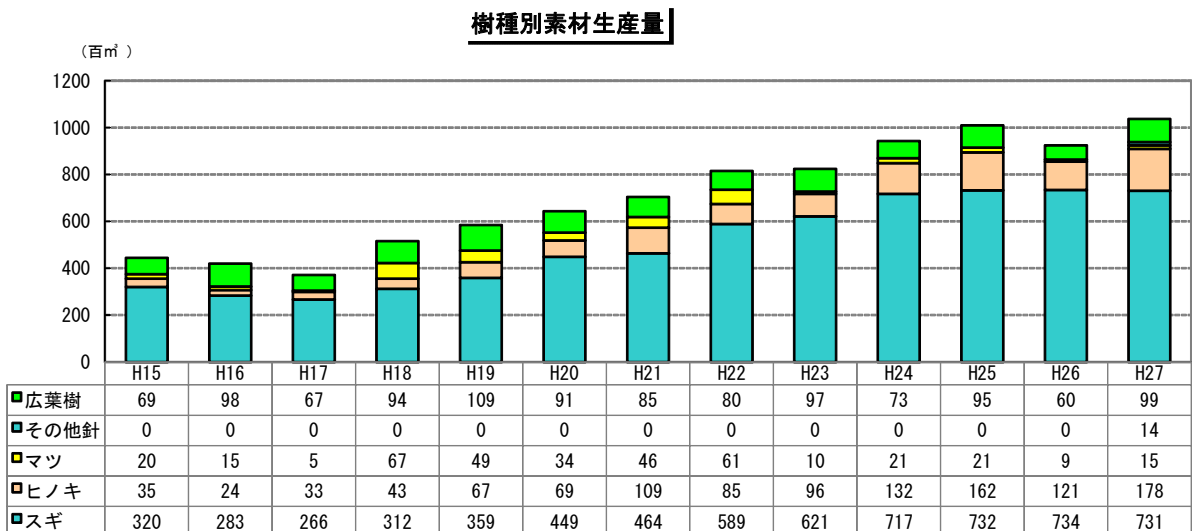
(3)木材価格の推移

- 木材価格は最高値（昭和55年）の約1/3で推移している。
- 役物の需要減少により、価格が低迷している。
- 近年、針葉樹合板の原材料が外材から国産材にシフトするなどの傾向が進み、価格に底打ち感も見られたが、直近では、一般材の供給増、建築様式の変化や人口減少等による住宅着工戸数減の影響等を受け安値低迷が続いている。

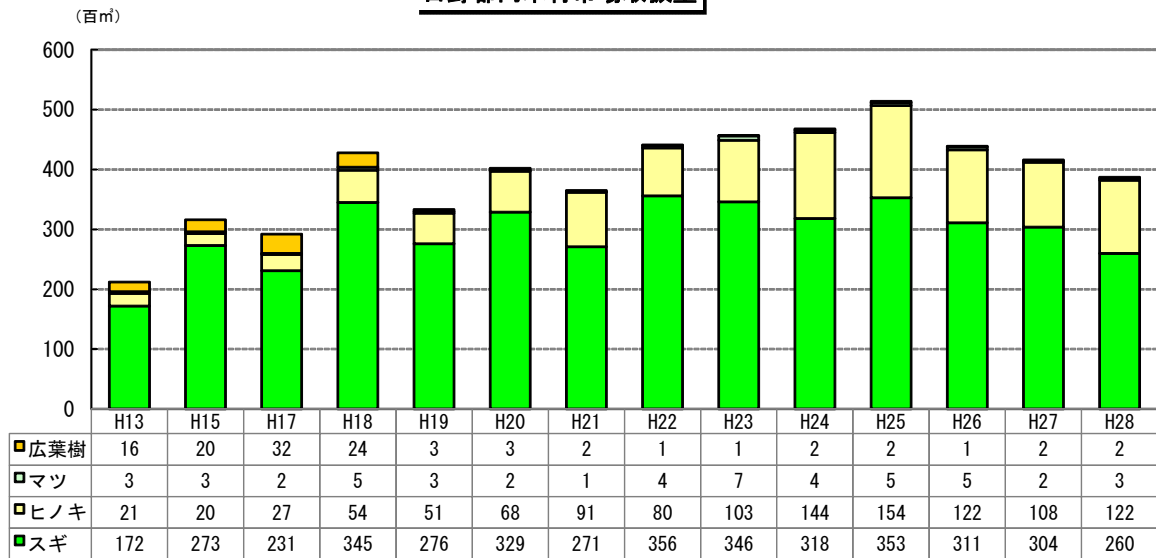


(4)地域材の供給

- 引き続き材価の低迷を受けて、主伐(皆伐)を控える傾向に依然変わりはなく、間伐材の生産が中心となっている。
- 日野郡の素材生産量は、「造林事業」を活用した間伐、「間伐材搬出等事業」への積極的な取組により、平成18年度頃から年々増加しており、平成25年度には10万m³を上回った。
- 日野郡では、株式会社オロチ（LVL製造工場）への木材、株式会社日新への燃料の安定供給を目指し、市場を介さないで直接納入するなど、定価格、安定出荷の取組も見られる。



日野郡内木材市場取扱量



(注) 日野郡内の原木の流れ

- 米子木材市場生山支店の原木取扱量は、樹種別ではスギ67%、ヒノキ32%、広葉樹0%、マツ1%で、圧倒的にスギが多い。入荷先の93%(H28)が日野郡であることがその理由である。
- 出荷先(買い方)としては、西伯郡(レンクス)、日野郡(オロチ)もあるが、その多くは岡山県、島根県、広島県等の県外となっている。合板用として境港市(日新)へも出荷が始まっている。
- この様な中で、平成12年から南部町で協同組合レンクスがスギの三層クロスパネルの生産を始め、平成20年からは日南町でオロチによりLVLの生産が開始されたことにより、日野郡内で生産された木材が、県内で高次加工され、県外へ出荷される体制が整備された意義は非常に大きいものがある。

(5)森林路網の整備

- 日野郡内では、路網整備の骨格となる森林基幹道3路線(宝仏山1号、宝仏山2号、窓山線)の開設を進めている。
- 「合板・製材生産性強化対策事業」(国庫)や「造林事業」(国庫、県も嵩上げを実施)等により、間伐など森林施業の推進や素材生産コストの低減に不可欠な作業路網の整備を進めている。

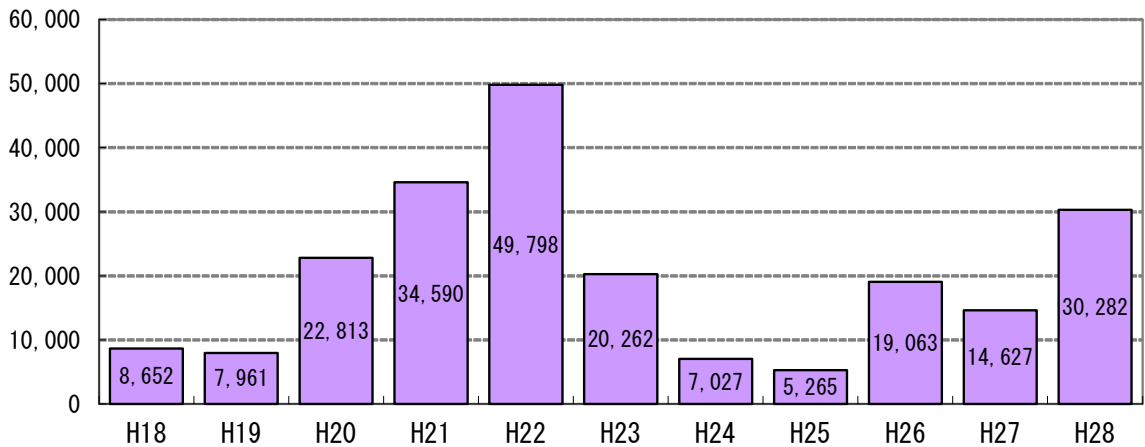
単位：m

路線名	位置	延長	事業費 (千円)	工期	開設済延長 (H29末)	開設計画 (H30以降)
森林基幹道 宝仏山1号	江府町俣野 ～武庫	6,900	2,322,365	H元～H38	4,756	2,144
森林基幹道 宝仏山2号	日野町金持	7,990	2,058,278	H元～H38	6,233	1,757
森林基幹道 窓山線	日南町新屋 ～上萩山	17,233	4,323,960	H8～H41	10,098	7,135

※出典：日野振興局業務資料

- 森林作業道について、平成28年度は「鳥取県合板・製材生産性強化対策事業」が新たに開始され、10/10助成により延長が伸びており、開設に当たっては、鳥取式作業道を軸とした丈夫な道作りを推進している。
- また、幹線路網となる林業専用道（規格相当）の整備を推進しており、平成28年度には約4.1千メートルが開設されている。

作業道開設延長

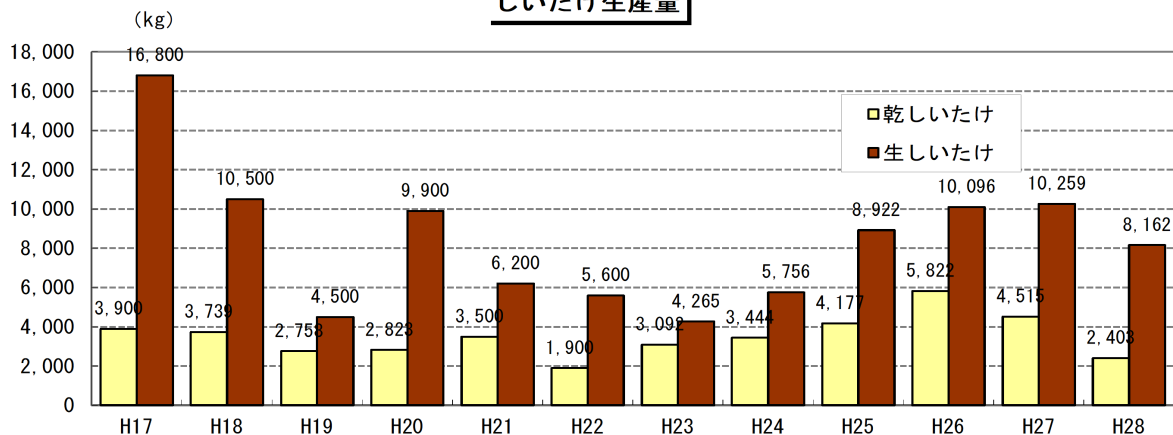


※出典：日野振興局業務資料

(6)しいたけの生産

- 乾しいたけ生産は、近年の自然健康食品の嗜好の高まりなどを受け、比較的高値で安定して推移していたが、東日本大震災による風評被害により価格が下落した。また、生産者の高齢化と後継者不足、原木入手の困難化などから、生産量は停滞傾向にあったが、販売価格も持ち直しつつあり、徐々に増加している。
- 生しいたけの生産量は、菌床栽培に企業が参入するなどの動きがあるものの、平成23年度までは減少傾向にあった。しかし、大口生産者の生産拡大、補助事業の導入により、平成24年度からは向上に転じている。

しいたけ生産量



※出展：日野振興局業務資料